

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

米インフレは加速するか

<ポイント>

- ◆先週金曜は、イエレン FRB 議長発言と米 2Q GDP の予想外の上方修正を受けてドルが対主要通貨で一般的に小幅高となったのが特徴的だった。ドル/円は東京時間早朝の 120 円丁度近辺から、米 GDP 発表後にかけて 121.24 円の高値を付けた。
- ◆本日は、黒田総裁発言(14:30 講演、16:45 記者会見)、カンリフ BoE 副総裁発言(16:00)、ラウテンシュレーガー ECB 理事発言(17:30)、ダドリー NY 連銀総裁発言(21:30)、米 8 月個人所得・支出およびコア PCE デフレーター(21:30)、米 8 月中古住宅販売仮契約(23:00)などが予定されている。
- ◆中ではややハト派でイエレン議長に近く常に投票権があるダドリー総裁発言とコア PCE デフレーターが重要で、10 月利上げの可能性が強くと示唆されたり、コア PCE デフレーターが想定(前月+1.2%、市場予想+1.3%)以上に加速を示す場合には、再び 121 円乗せもありそうだ。
- ◆週末 27 日のスペイン・カタルーニャ州議会選挙では、98%の投票集計でスペインからの独立を主張する 2 党(マス知事率いるジュンツ・パル・シイ党と CUP 党)が 135 議席のうち 72 議席を獲得した模様だが、得票率では 47.9%と過半数に満たなかったようだ。独立派は公約通り 18 か月以内の独立宣言の意向の模様だが、ラホイ・スペイン首相の強い反対や分離独立宣言の違憲性を背景に、自治権拡大で落ち着く可能性も残っている。早朝のユーロ相場は 1.12 ドル丁度近辺から 1.1176 ドルへの限定的・一時的下落に留まっている。

昨日までの世界:ドルは小幅高に留まる

ドル/円は、イエレン FRB 議長発言と米 2Q GDP の予想外の上方修正を受けてドルが対主要通貨で一般的に小幅高となったのが特徴的だった。ドル/円は東京時間早朝の 120 円丁度近辺から、イエレン FRB 議長が年内利上げの可能性を強調したことから、来年へ利上げ見送りとみていた投資家のドル買戻しが入ったとみられ、120.30 円程度へ小幅に上昇した。その後、欧州時間入り後、イエレン議長発言の再評価から対主要通貨でドル高が進み、一時 121 円台乗せとなった。そして米 2Q GDP 最終推計値が前期比年率+3.9%と、改定値の+3.7%から予想外に上方修正されたことを受けて、発表後に 121.24 円の高値を付けた。但しその後は、米株価や米中長期債利回りが反落したことから、120 円台半ばへ小反落して引け、121 円台定着とはならず 120 円を中心としたレンジ上限の重さを確認したかたちとなった。

なお、東京時間朝方には本邦 8 月コア CPI が前年比-0.1%とマイナスに転じたこと、昼には安倍首相と黒田日銀総裁の会談が開催されたことなどから、本邦株式市場などでは追加緩和期待が高まった面もあった。もっとも、会談後に黒田総裁は首相から特に要請はなかった、エネルギーを除くと CPI は +1.1%だとも述べ、日銀の追加緩和消極姿勢が改めて示された。為替市場では、欧米時間の円安の

一因となったかもしれないが、東京時間の円安方向での反応は限定的となった。

ユーロ/ドルも概ねドル/円と同様の動きとなり、イエレン議長発言後のドル高により 1.12 ドル台前半から 1.12 ドル割れとなり、欧州時間入りにかけて 1.116 ドルへ続落した。その後 NY 時間にかけて反発していたが、米 2Q GDP の上方修正を受けて再び下落したが欧州時間の安値には届かず、引けにかけてはむしろ米株安や米利回り反落をうけて再度 1.11 ドル台後半へ反発するなど、どちらかという底堅い展開となった。

ユーロ/円は、アジア時間はユーロ/ドルと共に軟調となり 134 円台前半へ軟化したが、欧米時間にかけてはドル/円と共に強含みとなり、一時 135.39 円の高値を付けた。

豪ドル/米ドルは、中国株安の影響(豪ドル安)も、米ドル高材料(イエレン議長発言、米 GDP 上方修正)の影響もあまり受けず、概ね 0.70 ドル台前半での横ばいとなった。

豪ドル/円は、米ドル/円とともに、84 円台前半から 84 円丁度へ強含みとなった。

きょうの高慢な偏見:米インフレは加速するか？

[今週の見通しはこちら\(9月25日付FX戦略ウィークリー\)](#)

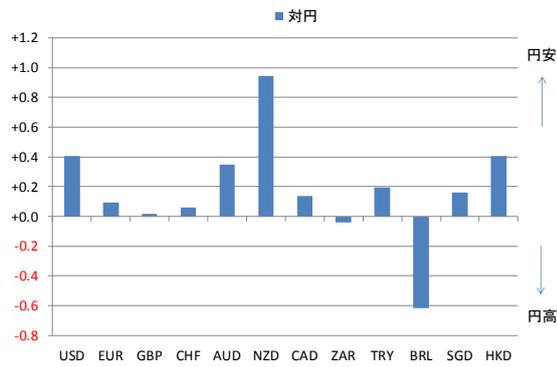
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は引き続き 120 円を中心とした 118-122 円のレンジだが、本日の材料の中ではイエレン議長に近く常に投票権があるダドリーNY 連銀総裁発言と米コア PCE デフレーターが重要で、早期利上げに前向きな内容となったり、コア PCE デフレーターが想定(前月+1.2%、市場予想+1.3%)以上に加速を示す場合には、10 月 FOMC での利上げの可能性が意識され、再び 121 円乗せもありそうだ。

ユーロ/ドルは、ECB の追加緩和に関する姿勢が煮え切らない中で、ドル相場の動向に左右される展開となりそうだ。ダドリー総裁発言がタカ派的となったり、米コア PCE デフレーターが加速を示す場合には、1.11 ドル丁度方向へ軟化しそうだ。

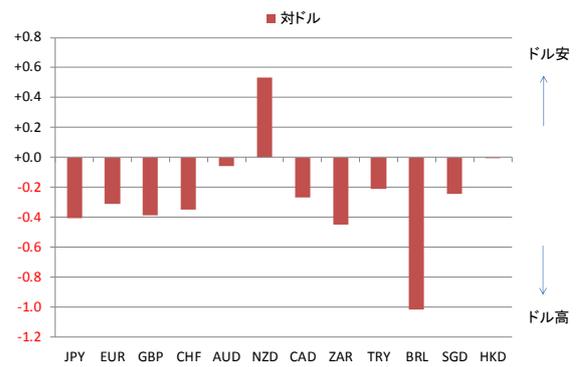
豪ドル/米ドルも中国株価やコモディティ価格動向を睨みつつ、米ドル相場の影響も受けそうだ。下落基調が続く中、中国株安、コモディティ安や米ドル高が重なれば、まずは 24 日の直近安値(0.6939 ドル)、そして年初来安値(9月7日の 0.6876 ドル)を視野に入れた展開となりそうだ。

主要通貨の対円相場(前日比%)



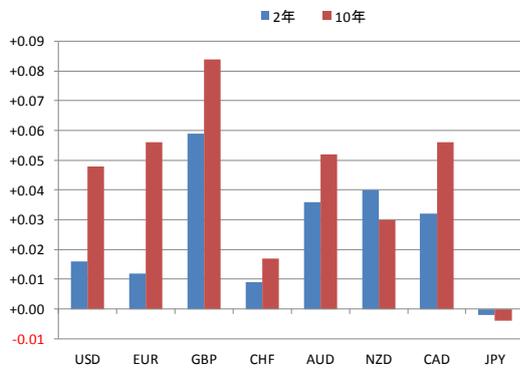
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



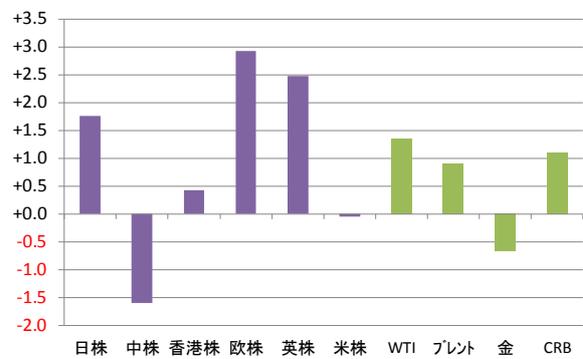
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会